

# コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年3月11日

Nature論説：

新型コロナ感染防止のための行動制限緩和：専門家はどう見るか？

## 【松崎雑感】

台風が通り過ぎたから、避難も止めて、雨戸を外し、気象観測も止めよう、と思う人はいないでしょう。「コロナ台風」が収まりかけるように見えた時に、もうマスクも、社会的距離制限も、サーベイランスも止めようという事では、結構まずいのではないかというNatureの記事です。

明日以降、新型コロナ感染が長期的不可逆的な中枢神経障害をもたらすおそれがあるという研究を紹介します。感染しても死ななければよいというものではありません。

## 新型コロナ感染防止のための行動制限緩和：専門家はどう見るか？

Stokel-Walker C. COVID restrictions are lifting - what scientists think. **Nature**. 2022 Mar 7. doi: 10.1038/d41586-022-00620-7. Epub ahead of print. PMID: 35256787.

多くの国で、行動制限ルールが緩和され、検査が減っているが、時期尚早とする専門家も少なくない

世界中で、2020年初頭から実施されてきた旅行とイベントの制限、マスク着用、自己隔離などの感染防止対策が、緩和されつつある。専門家の意見には賛否両論がある。

感染率が減り、オミクロン株が以前の変異株より重症化リスクが少ないことを根拠に、オミクロン株流行地域の政治家は、感染防止対策を緩め始めた[1-4]。

例えばイギリスでは、公共の場でのマスク着用義務と、感染後の自己隔離義務などすべての法的義務付けを解除した。ポーランド、アイスランドなどの国々では、屋外でのマスク着用義務を廃止し、イベント制限を緩和し、ナイトクラブの再開と人数制限終了を決めた。

## 時期尚早なのか？

対策緩和が速すぎると考える専門家がいる。スイスでは、ほとんどの公共の場でのマスク着用義務が廃止された。感染者の5日間自己隔離義務は継続しているが、それ以外の行動制限は廃止された。

「マスク着用義務廃止は速すぎる。PCR検査の陽性率は再増加して35%を超え、1回でもワクチンを受けた人々は7割程度なのに、なぜそのようにしたか疑問だ」とジュネーブ、新興感染症センター所長イサベラ・エッケル氏は語っている。ちなみにイギリスでは、成人の7割がブースター接種を完了している。

感染防止対策を緩和した国や地域では、その後感染者が再増加し、入院数も死亡数も増えているところが多い。

これらの増加がすべて新型コロナ感染に起因するとは断定できないが、多くの部分は新型コロナによると考えてよさそうだと、クイーンメリー大学疫学専門家 Deepti Gurdasani は述べ、極めて懸念される状況だ、しかもこれ以外にロングコロナの問題もあると付け加えた。

Gurdasani氏は、制限緩和による感染者と死亡者の増加を抑える対策が必要だと考えている。例えば、マスク着用を推奨するにとどめる場合は、換気をしっかり改善することが大事である。

しかし、自然感染とワクチン接種により多くの人々が免疫を獲得してきた地域では、多くの感染防止対策に果たして意味があるのかが疑問だとする専門家もいる。

セントアンドリュース大学感染症専門家Müge Çevik氏は「われわれは現在、以前と異なる状況にいる。感染をゼロとすることはできない。重症化を防ぐことに力を入れるべきだ。様々な制限がなくなったとしても、人々はすぐに無分別な行動をするはずがない」と語った。

ルクセンブルク保健局の疫学専門家Joël Mossong氏は、規制緩和を支持している。「死亡者はいるが、去年の冬から春の過酷な状況ではない。行動制限継続への支持は少ない。規制緩和を進める時期に入っている」と語った。

検査は引き続き「カギ」である

行動制限の緩和だけでなく、PCR検査を減らす国もある。専門家は、現在の状況で検査を減らすことは拙速だと考えている。検査を減らすと、現在どれほど流行しているか、そして、変異株が出現していないかがわからなくなると、エッセル氏は語った。社会的距離対策で離れていた人々が混ざり合い、PCR検査をやらなくなると、藁の中の針を探すような状態となり、市中感染が増加し、変異株が出やすくなると彼女は説明した。

Gurdasani氏は、イギリス政府が濃厚接触者の追跡と無料検査の提供を終了したと決めたことは誤りだと考えている。

「検査こそが感染を押さえるカギだ。それが実現してこそ、我々は自由な生活を取り戻すことができる」と。

しかし、大規模検査の継続が必要だと考えている人ばかりではない。Çevik氏は、より対象を絞った検査とすべきと主張する。

「無症状の人々に検査を行うことでかえって人々の通常の生活を阻害することとなりやすい。病院、ケアホーム、刑務所などハイリスクな施設で定期的検査を行うのが望ましい」と述べている。

Mossong氏は「サーベイランスを続けるしっかりした根拠が必要だ。変異株を早く見つけ出すには検査を行って流行状況を把握する必要があるが、すべての感染者を対象とする必要はない。検査そのものが重要なのではなく、検査結果をどのように活用するかが大事なのだ」と語った。